

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「家庭的な環境と地域住民との交流の下で、その人の地域生活継続を支援します。 また、個性を尊重し、なじみの関係を築きながら穏やかで活気ある生活を提供します。」</p>	<p>このたび、「地域密着・地域生活継続」を意識してホーム理念を変更いたしました。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ホーム内及びスタッフルームに理念を掲示し、常に理念実現に向けての意識向上を図っています。対応に行き詰った時は、理念を振り返るようにしています。 また、職員全員が理念を暗唱できます。</p>	<p>常に理念を意識すること、理念を振り返るように携帯用のケースに理念を入れて全職員が常に携帯しています。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>このたび、その方の地域生活継続を意識した理念に変更しました。運営推進会議で常に理念が実践できているか課題で取り上げ、面会に来られたご家族にもご理解いただくよう説明しています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホームの立地上、気軽に散歩することが難しい。近隣に店舗もなく、外出して商店街の人々との触れ合いもできない立地条件です。</p>	<p>近隣の方の日常的な付き合い・交流については今後の大きな課題です。今ある資源の中でいかにして、場面作りをしていくか検討していきます。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>近隣の小学校からの訪問(交流会)、小学校の音楽会の招待を受けています。また、地域の夏祭りへの参加等、地元の人々との交流機会の確保に努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		ボランティアの受け入れ、地域住民を対象とした認知症を理解いただく機会、実習生の受け入れ等、今後さらに積極的に行っていきたいと考えています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		全職員が学べるように勉強会や外部の研修に、積極的に参加させるよう努めます。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		勉強会や外部の研修機会を確保します。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約の際はゆっくり時間をかけ利用者や家族に納得いただくまで説明しています。当ホームで「できること・できないこと」を説明して入居後に誤解を与えないよう慎重に説明しています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の日々の様子を観察し、言いたいことや不満がありそうな時は職員から声かけするようにしています。ただ、外部者へ表せる手段が現在のところ限られており今後の課題です。</p>	<p>運営推進会議には利用者代表者に出席いただいておりますが、全ての利用者が外部へ苦情や不満を表せる機会づくりが必要です。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ご家族の面会時には時間をかけて日々の様子を報告しています。ただ面会の少ないご家族には十分な説明ができていない面もある為今後の課題です。</p>	<p>金銭出納状況の報告、ホーム便りの作成を考えています。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時、スタッフから一方的に話しかけるのではなくご家族の感想や希望が言い易い雰囲気作りを意識しています。また必要時は外部の機関に苦情や意見を表すことが出来る旨、入居時や入居後も伝えていきます。確認した苦情等は即、管理者はじめスタッフ間で協議し、サービス提供に反映させるよう努めています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>開設者、管理者は現場職員が思いや意見を遠慮なく言える雰囲気作りを心がけています。運営方針や職員採用時等には事前に相談し現場の意見を反映させるよう努めています。風通しのよい職場です。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員は常勤・非常勤・看護師資格保持者等、人数的に余裕を持った体制です。これにより利用者の状態やホームの状況により柔軟な対応ができています。緊急時には管理者はじめ近隣職員による応援体制の確保もできています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	理念にもあるように「馴染みの関係」をモットーとしています。やむを得ず職員交代や退職がある場合には、十分な引継ぎ期間をとり利用者を与える影響を最小限に抑えるように配慮しています。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修やトレーニング機会は十分確保できていますが、外部研修への参加はさらに積極的に取り組む必要があると考えています。		今後は、認知症介護実践者研修等の外部研修にも積極的に参加していくことが課題であると認識しています。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にグループホームが3箇所あり、法人内の情報交換や交流はできているが、他法人の同業者との交流の機会は現在のところ確保できていません。		市内のグループホームとの交流機会や勉強会等の機会を作ることが必須と認識しています。ネットワークを作ることにより、お互いのホームの質の向上や改善点の発見にも繋げていきたいと考えています。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者・管理者は、日頃職員が思っていることを自然に打ち明けられる雰囲気作りを意識し、ゆっくり個々に応じた対応でストレス軽減できるよう努めています。 また、スタッフルームも和室で畳とし、休憩時は利用者から離れ一息つけるよう配慮しています。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護支援専門員や介護福祉士資格取得等に向けた支援を心がけ、取得後は資格を活かすことができるよう本人と相談しながら業務内容を検討しています。 また、職員が新しい発想を出してくれたり、日々の努力の成果について把握し、職員に「褒めること・感謝すること」を忘れず、職員の意欲向上を図っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービス提供前に本人にもホームにお越しいただき、ホーム内を見学していただいたり、本人の思いや悩みをまず傾聴しています。そこから安心感をもっていただき信頼関係への第一歩を作っています。まず本人の思いを受け入れる様努めています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>まずは相談の段階からゆっくり時間をかけてご家族の不安や現在困っていることを傾聴し、受け入れることから始めます。家族の話ゆっくり聞くことで信頼関係の基礎を築き、ホームで「できること・できないこと」も説明して納得していただくよう努めています。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時に空床が無い場合などは、本人・家族がまずどうしたいのか、何に困っているのか等を把握し、急を要する場合は地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等と連絡をとり、他のサービス利用等で対応できるか調整援助しています。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>まず、申込利用者本人にホームにお越しいただきホームの雰囲気馴染んでいただきます。本人の気持ちや悩みも聞き、必要があれば、担当ケアマネジャー等にもお越しいただき本人の不安を少しでも解消するように考えています。初めてホームに入居することへの不安は誰しもあります。利用者の立場にたってサービス提供開始することに努めています。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「なじみの関係」をモットーとしています。人生の先輩として、また一人の人間としての関係を築いています。利用者に、時には教えていただき、時には職員が悩みや相談にのっていただいています。支援する側・される側という意識を持たず接しています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	地域密着の視点だけでなく、「家族とともに…」をモットーにしています。外出イベント時などもご家族にも声をかけ、一緒に付き添っていただいたりしています。		普段の暮らしぶりを、ご家族にさらにきめ細かく伝える必要があります。ささいな事でも伝えることでご家族との信頼関係を築き、「ともに支えていく」という共感を職員とご家族がもっていければと思います。
29	利用者との関係のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は、利用者のご家族の架け橋と共通認識しています。あくまで職員は裏方にまわる意識で、利用者のご家族の関係が入居することにより疎遠にならないよう、また疎遠がちな場合は、修復に向けてさりげなく関わりをもつようにしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に会いに出かけたり、来て頂いたり積極的に行っていません。例えば、ホーム入居後も馴染みのかかりつけ医へ通院していただく例もありますが、今後はさらに今までの生活の継続支援を心がけます。		入居前の生活の継続支援を強化し、その為の外出支援や、友人等にホームへお越しいただくなどの配慮に努めます。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	どうしても人間関係の良し悪しや、性格上孤立されがちな利用者はいらっしゃいます。職員が個々の性格や人間関係をしっかり把握し、その人が持つ個性をうまく活用していただきながら利用者同士の関係がうまくいくよう配慮しています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	過去の退去例は、状態悪化による医療機関転院や介護施設入所がほとんどです。例えば併設医療機関や併設介護施設へ入院・入所された場合は、その後もスタッフが面会に行ったりご家族と利用者の状態等の話をしたり継続した付き合いをしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中で、利用者の表情や言葉、言語の強弱等を敏感に感じ取るようにし、何がしたいのか、何を思っているのか汲み取るよう努めています。把握が困難な利用者の場合は、本人の立場に立って気持ちを考えたり、ご家族や関係者から利用者の情報を聞き取ることにより少しでも利用者の気持ちが把握できるよう努めています。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>今までどのような環境でどのような人生を過ごしてこられたかを、利用者本人・地域関係者・家族・担当ケアマネージャー等から把握しています。強引に聞き出すことはせず、少しずつ・ゆっくりを心がけ、利用者のプライバシーに配慮することも忘れていません。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>基本は、一人ひとりの生活リズムを把握することです。例えば、個々の排泄時間や排泄量の把握や食事量のチェックなどで健康状態を見極めたり、その方の有する能力を最大限に生かした生活援助、例えばできないと決め付けずに「できるかな？」の視点で援助にあたっています。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一方的にホーム側職員が介護計画を作成するのではなく「画一的で機械的にならないように」、利用者や家族や関係者からの希望も必ず取り入れています。職員全員の意見も取り入れたうえで、利用者の為の利用者本意の介護計画作成を常に意識しています。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的介護計画の見直しをしています。利用者や家族の状況は刻々と変化していることを念頭におき、必要に応じて随時見直しもしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の些細な事も介護記録に記載し、介護計画の見直し等に活用できるよう取り組んでいます。申し送り事項もノートに記載し、出勤時に必ず全員が目を通すよう統一しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の個々の状況に応じて柔軟に対応するよう心がけています。介護保険内のサービス提供以外でも、事業所独自の取り組みについて今後さらに力を入れていきたいと考えています。		平凡的なサービス提供で終わらず、色々な発想を出して我がホーム独自の取り組みやサービス内容を考えて、積極的に提供していきたいと考えています。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用は利用者の生活の質の向上の為に重要です。ボランティアや民生委員との連携はしていますが、率直に言うとまだまだ不十分な感が否めません。		今後は今以上に積極的に、さらに幅広く公的機関等との繋がりを図っていきます。
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ、積極的な取り組みは行えていません。		利用者の生活をより総合的に支援する為、介護保険外のインフォーマルサービスも含め、積極的に他事業所等と連携を図っていきます。
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ地域包括支援センターとの具体的な協同は行えていません。		現在のところ地域包括支援センターとの繋がりを必要とする困難事例等はありませんが、利用者支援や運営面において情報交換をし、ネットワーク作りをしていきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関だけでなく、在宅中からのかかりつけ医に現在も通院されている方もいます。入居前のかかりつけ医との信頼関係ができていれば入居後も通院継続することにより利用者も安心感を持たれます。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同法人内の近隣医療機関に精神科の医師がおり、いつでも気軽に相談ができる体制です。また同法人内に認知症疾患センターもあり、職員が専門的知識を習得する機会や利用者の認知症に関する相談ができる体制も充実しています。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤で看護師を配置しています。さらに協力医療機関が併設病院で、担当看護師が毎日ホームを訪問して利用者とコミュニケーションを取りながら健康状態の把握をしてくれています。毎日訪問してもらうことで人間関係も良好です。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、主治医やケースワーカーと連絡を密にとり、状態把握や退院目処について連携を図っています。適宜情報は家族へも提供しています。日頃から、地域の急性期病院の担当者とは連携が図れており、ホームと医療機関との関係も良好です。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については「前もってできるだけ早い段階で」を心がけて主治医や家族と相談していく方針です。利用者や家族の意思を尊重しつつ、ホームで「できること・できないこと」をしっかりと説明したうえで、今後どうするかの方角性を主治医・家族・ホーム職員等で考えています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者・家族の意思を尊重することを第一と考えていますが、ホームで「できること・できないこと」を主治医や家族にゆっくり時間をかけて説明しています。協力医療機関の医師も月に何度かホームにお越しいただき、日々の状態把握に努めていただいております。少しでも状態変化があれば観察を強化し、家族へ連絡をとり急変時や重度化に向けた体制をとるよう努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者や家族の精神的不安やダメージを最小限にするよう、移られる先への情報提供を密にしています。ホームでの生活の継続性を絶たないようにホームでの生活リズムや支援方法などきめ細やかな伝達をプライバシーに配慮しつつ提供しています。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時には、守秘義務や個人情報保護の徹底を図っています。また業務中は管理者やリーダーが常に職員に目を配り、何気ない一言や行動がプライバシーを損ねていないか注意しています。事業所全体で細心の注意を払い、また日々改善に取り組んでいます。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「さりげなく自然に」利用者と接し、利用者が何を考えているのか、何をしたいのか察知するようにしています。こちらが指図したり決めるのではなく、あくまで利用者が「こうしたい こうする」を基本としており、職員がさりげなく自己決定できる場面作りをしています。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを尊重し、職員はその方の一日が穏やかに活気あるものになるようさりげない裏方の役割を担うよう取り組んでいます。ホームとして大まかな一日の流れはありますが、それにとらわれずに、あくまでその人のリズムや都合で過ごして頂いています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日の服装をさりげなく褒めたり、衣服に乱れがあればさりげなく直してあげること、化粧をされる場合も上手にできるようお願いをしています。理美容に関しては、ホームに訪問理美容に来ていただいております。それ故にそれに頼ってしまう面があり、外出して利用者の望む店へ行けていないのが現状です。		ホームに来ていただいている訪問理美容だけでなく、利用者が希望する地域の店へ行けるよう支援していきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在のところ、食材選びや献立作りは利用者とともに進めています。 食材の盛り付け、配膳等を利用者に役割分担をして行っています。		献立作りから食材調達までの一連の流れをホームの都合ではなく利用者主体で行うことが月のうち数回でも実現できればと考えていますが、ホーム立地条件等でなかなか困難な状況です。今後の大きな課題と認識しています。
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人一人の嗜好については、職員が把握しています。例えば鮎やヤクルトなど本人管理が出来ない場合はスタッフ預かりとし、本人の訴え時に渡したり、職員がタイミングをみて渡しています。嗜好品を取り入れることにより利用者の精神的安定を図り、ホーム生活がスムーズにいくよう意識して取り組んでいます。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄記録をとっています。それをもとにパターン把握し、その方にあった時間誘導や誘導方法を行っています。また、時間だけにとらわれず、個々の表情などのサインを把握し、見逃さないよう全職員徹底しています。極力トイレでの排泄を基本とし、おしめに頼らないことを目的としています。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々に合わせた入浴回数で対応できています。週3回のかたもあれば毎日入浴される方もいます。希望時や必要時は随時入浴いただける体制です。		入浴時間を概ね決めていることが課題です。利用者の入りたい時間に対応できることが理想です。今後少しでも柔軟な対応ができればと考えています。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中に運動量を確保し夜間の安眠に繋がるよう努めています。眠剤を服用されて安眠されている方もいます。夜間寝付けず興奮される方は、職員がゆっくり話を聞いたり、読書などで心を落ち着けていただき安眠いただけるよう焦らずゆっくり対応するよう心がけています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方の過去の生活歴や仕事を活かした趣味や取り組みをしています。普段の生活の中でも特技を活かした役割をもつていただき、生き生きといただく場面作りに努めています。職員がいるんなら「教えていただく」という意識でいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力に応じた対応はしていますが、基本的にはホームでの預かり管理としています。利用者の中にはご自分で管理されており、そのことにより社会的感覚を失わないことや、安心感に繋がっています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望にそっての支援はできていません。立地条件的にも気軽に戸外へ出掛けることは難しく、月に数回の外出の機会も、スタッフの意向で決めてしまっているところは否めません。		利用者の希望で行き先を決めるよう努めたいと考えています。「今度はあそこへ行きたい」、「今日はここへ行きたい」などの利用者の声を反映させなければいけないと認識しています。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	実現できるよう努力していますが、なかなか援助できていません。		一人ひとりの思いや願いをかなえられるよう、ご家族にもご協力をあおぎ、少しずつ改善していきます。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームに公衆電話は設置していません。必要時はホームの電話を使用いただいています。手紙は数名の利用者が書かれて知人や家族と通信をされています。ホームとしては利用者が知人や家族と疎遠にならないように努めています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	できるだけ自然な形で出迎え、気軽に訪問できる雰囲気づくりを目指しています。お越しいただいたときは、お茶やおやつなどを出してゆっくりくつろいでいただけるようにしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者はじめ全ての職員が「禁止の対象となる具体的な行為」を認識しています。現在具体的な事例はありません。ケアにあたる時に少しでも疑問があれば管理者含め、職員全員で禁止行為にあたるかどうか協議しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は24時間をとおして一切鍵はかけていません。玄関先も日中は一切鍵をかけていません。利用者が外へ出ようとされた時は、制止するのではなくさりげなく声かけをし、いっしょに外へ出て散歩したり花壇を眺めたりしています。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	「さりげなく・自然に」を心がけています。スタッフルームから居室全てが見渡せない難点があります。定期的また随時見回りはしていますが、ハード面のため改良することは難しい点です。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの能力に応じて対応しています。包丁はスタッフルーム管理ですが、はさみ等は個々の能力に応じて個人で管理されている方もいらっしゃいます。全て一律にスタッフ側が管理してしまう事は、利用者の楽しみや能力を奪ってしまうことに繋がることを認識して取り組んでいます。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメントについては日頃から朝の申し送り等で情報共有し職員の意識向上に努めています。またヒヤリハットレポートの提出や、その情報の共有を職員間でし、同じ事故やヒヤリハット事例の繰り返しが無いような体制作りをしています。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	残念ながら、ホーム職員の定期的な訓練等を行っていません。現状は、併設医療機関があるため、併設病院の医師や看護師に頼っています。		今後は、現体制の見直しをして専門職からアドバイスを聞いたり、定期的に訓練を取り入れていきます。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防避難訓練を行っています。また消火器やスプリンクラー等の定期メンテナンスや避難経路の整理整頓もしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々のリスクについては、入居時や入居後もご家族に説明をし、理解いただくよう努めています。リスクがあるからといって、行動を抑制することはせず、あくまでのびのびとした生活をモットーとしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、併設協力病院の看護師がホームへ来てくれます。また、ホーム職員もバイタルだけでなく利用者の表情や仕草などで少しでも「いつもと違うかな?」と感じたときは、その日の勤務スタッフと情報を共有し、夜勤者へ申し送りを確実にしています。		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとの「薬品名・効能」を一覧シートにして、全職員が簡単に把握できるようにしています。また、センター方式を活用していますので、かかりつけ医や薬品名を個々のシートに記載しています。		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維を取り入れた食事について併設介護施設の管理栄養士に相談しています。基本的には薬に頼らず、生活の中で自然に運動量を確保して便秘の予防に努めています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の能力や状態にもよりますが、ご自分で歯磨きをされる方、自分からされない方は自然に声かけして職員が見守りしています。義歯の方は職員がブラッシングと洗浄剤にて洗浄しています。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を個々に記録しています。職員全員が共有できるようにしています。必要時は、併設介護施設の管理栄養士や協力医療機関の看護師に相談してアドバイスを受けています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止対策マニュアルを配置し、各感染症に対する対策に努めています。 ホーム内各場所にペーパータオルを設置したり、インフルエンザ予防接種も職員・入居者ともに積極的に摂取し感染予防・衛生管理に努めています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や台所周りは職員で取り決めて定期的または随時、衛生管理に努めています。 冷蔵庫の中も、期限切れのものがいないかの確認や掃除など必ず行うよう徹底できています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム庭周りにプランターの設置、利用者がくつろいだり庭で食事会ができるテーブルを設置しています。 親しみやすく優しい雰囲気を意識して玄関周りの工夫に取り組んでいます。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光、におい等を常に敏感に意識し、利用者の五感刺激の配慮を心がけています。利用者が不快な気持ちにならないようカーテンで光の調節、空調も適度に自然の風を入れるなど随時状況を見て対応しています。 ホーム内の装飾も、その時々季節感のあるものとしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペース、ソファ設置等しています。 利用者の人間関係に配慮しながら、気のあった方が同士がゆっくり落ち着いて過ごせる空間作りです。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ入居時や入居後も馴染みの家具や物の持込を依頼しています。 ただ実際は、ホームで準備したものを中心に居室作りをされる方が多いです。数名の方は、馴染みのテーブルや椅子、家族の写真など持込されています。		まだまだ馴染みの家具等の持ち込みについては不十分と思います。今後はさらに積極的にご家族にはたらきかけをし、馴染みのものでその人らしい生活の継続支援をしていきます。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房に頼りすぎず、自然の風を取り入れることを基本としています。 職員の感覚ではなく、利用者の感じる視点で空調管理をしています。常に勤務スタッフが温度に気を配り随時窓を開けたりの対応を個々にしています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置は完備しています。利用者個々の身体条件にあった視点での環境整備は不十分と思われます。		手すりなどは、ホーム開設時のものでその後改修や個々の高さにあった対応などの工夫ができていません。 現実的にかなり難しい問題ではありますが、一人一人にあった生活環境整備を心がけます。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員が一人ひとりの「わかる力」「わかりにくい力」をまず見極めるよう努めています。この方は何が分かりにくいのか、どう工夫すれば分かるのかを常に考え、物の配置や表示方法を考えています。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先のベンチ・庭のテーブルの設置、玄関先のプランターや野菜畑など、ホーム外での活動資源を確保して生き生きと活気ある生活を理念のとおり実現しています。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)